

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■ラフバラ大学研究拠点活動報告

No.17

2月3日(月)

■ラフバラ大学訪問者案内

ロンドンの日本人スポーツ関係者が来校。駅への送迎と学内案内およびラフバラ大学関係者への紹介を実施した。ラフバラ大学への日本人訪問者は、今月末で40名を超えた。



2月4日(火)

■ロンドンにてミーティング

2020 東京招致においてコンサルタントであった、マーティン・ニーマンとのミーティングを実施した。

2月6日(木)

■ソチオリンピックにおける調査研究のため現地入り

JSC 現地本部にてスタッフとの顔合わせ、および明日以降の日程確認を実施した。その後、コースタルクラスターマルチサポートハウス(以下 MSH)を視察した。



2月7日(金)

■開会式視察

JOC ジャパンハウスおよび開会式の視察を実施した。他国 NOC ハウスについても調査を行った。また、2020 年東京大会に向けて、開催国のレガシー調査は継続して実施することが重要であると実感した。



2月8日(土)

■クラスターマウンテン MSH 視察

館内を視察。滞在している各競技・種目のコーチ、スタッフから貴重な情報を聞くことができ、大変参考になった。現場の声をどれだけ収集し、それを次回以降に様々な形で活かせるかがポイントである。そのために必要なことは、利用者の声であることは言うまでもない。その上で最適を提供するアイデアも必要となる。

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■オーストリア・チロルハウス視察

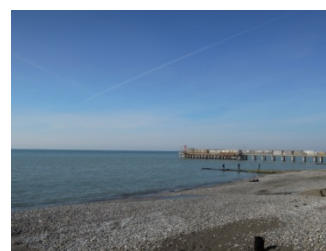


情報収集する過程において、比較対象を意識して実施することは有益である。その点で昨日のJOC ジャパンハウスとの比較ができたことは重要であった。

2月9日(日)

■スキー連盟のスタッフとミーティング

インテリジェンスを含めて、様々な視点での情報共有を実施した。多くの公開情報と合わせて、現場の声を目に見える形で次回以降に活かせるがポイントである。(冬季オリンピックとは思えない、温暖な気候のソチ黒海沿岸)



2月10日(月)

■コースタルクラスター選手村視察

日本人棟にて、橋本団長、柳谷さん、高橋さん等事務局スタッフに挨拶。村内滞在のドクター2名からメディカルを中心とした情報提供を受けた。その他、味の素スタッフ、選手、コーチからも情報を収集できた。一つ一つの機能は、諸外国と比較しても劣らない。何が違うのか？ 日本に帰国後多くの場で報告したい。

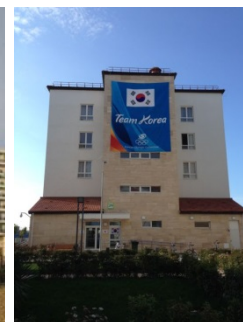
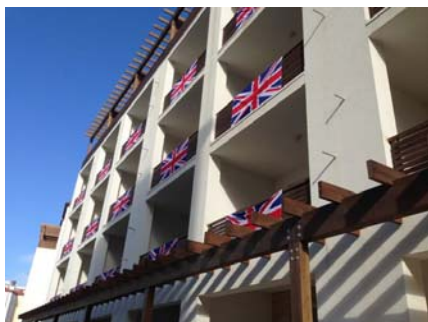


■フランス人棟を訪問

副団長に宿泊棟内を案内してもらった。村内の機能充実と使い方の上手さはこれまでと同様であり、諸外国の選手団機能の一端を垣間みた。



他国の宿泊棟の外観



報告者：久木留 毅（文学部教授）

■組織委員会が準備した機能の視察

フィットネスセンター、リラックスルーム、事務的機能、レストランを視察した。オリンピックは夏冬変わらずパッケージであることが改めて理解できた。



■オリンピックパーク、競技視察



オリンピックパーク内の聖火



スピードスケート会場

2月12日(水)

■英国へ帰国

フランクフルト経由にて英国へ戻った。オリンピックの冬季大会は、初めての訪問であり、貴重な機会であった。多くの有益な情報収集ができた。

2月13日(木)

■バリー・フリーハン教授とのミーティング

スポーツ情報戦略に関する整理等について貴重な意見を頂いた。

2月18日(火)

■EIS スタッフとのミーティング

English Institute of Sport と、パラリンピックに関する選手村の使い方等についてミーティングを実施した。英国のオリンピックとパラリンピックにおいて情報交換ができた。



報告者：久木留 毅（文学部教授）

2月25日(火)

- EIS およびユーススポーツトラスト(以下 YST)ミーティングに参加
貴重な情報を収集することができ、新しいネットワークも構築できた。



- 新しく建設中のスポーツ施設(新ヘルスセンター:左とナショナルスポーツ医科学センター:右)



2月27日(木)

- Ian とのミーティング No.25 および

Ian との 25 回目のミーティングを実施した。このミーティングは、英国における貴重な情報収集源であった。

まとめ

ソチオリンピックにおける調査研究は、多くの点で有益であった。この内容をどの様に活用していくかは、帰国後に関係者と相談していきたい。冬季競技という点では当大学も今回は 2 名の現役、OG を派遣した。



このことから、大学としてのサポートのあり方についても情報提供できると考えられる。

現在、11ヶ月が経過したが、英国および欧州は多くの意味で有益な場である。最後の1ヶ月を有効に活用して情報収集に努めたい。

